

【身近な夜行性の鳥たち】

①フクロウ類

夜行性の鳥といったらやはりフクロウだ。馴染み深い鳥ではあるが、実際に見たことのある人はほとんどいないだろう。そのため、フクロウの仲間は山間部に多くいる印象があるが、実は都市公園でも見ることができる（運が良ければだが…）。都市公園では渡りの途中に立ち寄るものが多いが、場所によっては一年中見られることもある。しかも、フクロウの仲間は一種類だけではない。フクロウの他にも、オオコノハズクやアオバズク、コミミズクといった種類も見ることができる（日本では11種類のフクロウが見られる）。



オオコノハズク *Otsu lempiji* 全長24cmの小型のフクロウの仲間。この個体は葛西臨海公園の林で偶然出会った（突然飛び出してきたから、心臓が止まるかと思った…）。この子を見た人は他にいないんだとか（別に自慢ではないよ？）。（2019.3.18の18:20に葛西臨海公園で撮影）



フクロウ *Strix uralensis* 部活のメンバーで鎌倉まで行き、やっとの思いで見つけた（どうやらこの時のテンションの上がりようがおかしかったようで、メンバーに引かれてしまった…）。いきもの記でお馴染みの下山先輩がいなければこの写真は撮れなかった。この場を借りて御礼申し上げる。（2023.10.14の18:51に鎌倉市で撮影）

②ゴイサギ

この鳥についても、夜行性だと知っている人は一定数いるだろう。ゴイサギは中型のサギの仲間で、日中は池に近い木陰などでじっと休んでいる。夕方（主に日没頃）になると、ねぐらから飛び立って活動を始める。他にも、夜間にも活動するサギ類として、アオサギ、ヨシゴイ、ミゾゴイなどがいる。



ゴイサギ *Nycticorax nycticorax* 日が暮れてから猿江公園の下池に集まってきたゴイサギたち（白丸の部分にいる）。この日は3羽飛んできた。（2023.8.1の18時～19時頃に撮影）



夜の公園を歩いたことはあるだろうか。日中忙しく活動していた動物たちも姿を見せなくなり、日中の騒がしさが嘘かのように静まり返る。だが、**そんな静かな公園でも鳥たちは密かに活動しているのだ！**といえ、「夜に鳥なんて見たことない」という人が多いのではないだろうか。それもそのはず、ほとんどの鳥は視覚を頼りに活動するため、昼行性である。**そもそも夜に活動する鳥が少ないのだ。**仮にいたとしても、暗くて見つけられないということがほとんどである。しかし、最近の公園は街灯が多く、さらにLEDが普及したことで、かなり明るくなった。つまり、**夜間に観察するには意外と適した環境になっているのだ。**

ナイトウォッチングの魅力は、鳥たちの昼とは違った姿が見られることだ！！特に夜行性の鳥に関しては、昼間とは比べ物にならないくらい生き生きとしている。昼との行動の違いを見比べるのが何より面白いのだ。写真を撮りにくいという欠点はあるが、写真が全てではない（そういう人もいるかもしれないが…）。自分の目で観察するだけでも、十分楽しめると思う。また、**夜行性の鳥は、昼行性の鳥と比べて特別感がある。**以前フクロウを見つけた時のゾクゾクとするあの感覚は今でも覚えている。その感覚を思い出すとまた見に行きたくなり、**沼にハマる。**他にも、夜は涼しく日差しも気にしなくて済む、といった利点もある。

ここで一つ、ナイトウォッチングのコツをお伝えしよう。**観察を始める時間は、日没の前がオススメだ。**夜行性の鳥が活動し始めるのが、日が沈んでからではなく日が沈む直前であるからだ。それに、日光でまだ明るいので、街灯がなくても観察がしやすい。また、**聴覚を頼りに探すということも重要である。**

ここまで、ナイトウォッチングの魅力やコツなどを紹介したが、ナイトウォッチングの良さが伝わっただろうか？いきもの好きなら絶対というほど楽しめると思うので、ぜひとも夜の公園に足を運んでみて欲しい。一重にバードウォッチングと言っても、色々な楽しみ方がある。**自分なりの“楽しみ方”を探してみるのも面白いかもしれない。**

最後に、身近に見られる夜行性の鳥をいくつか取り上げてみようと思う。夜間に活動する鳥は意外と多く、下で紹介するもの以外にも、ヨタカ、タマシギ、ヤマシギ、ヒクイナ、トラツグミ、ホトトギスなどがいるが、全てを紹介することはできないので、ぜひ自分でも調べてみてほしい。（文・写真：佐藤暖哲）

③カモ類

聞いて驚く人が多いだろうが、実は**カモも夜行性である**。日中にも結構活動しているところを見るが、どちらかというとと寝ていることが多い。また、採食などの活動は日中でもよく見られるが、鳴く頻度でいうと夜の方が多傾向があるように感じる（※筆者の主観です）。カモ類の行動について調べてみると、やはり日中よりも夜間に採食をすることが多いらしい。日没になると、潜水が得意なハジロ属（ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモなど）は狩場の水辺へと移動する。それに対し、植物食のマガモ属（ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモなど）は水上から陸地へと足を踏み入れ、植物の葉や落ち穂などを食べる。



キンクロハジロ *Aythya fuligula* 猿江公園北部の池で休息をとるキンクロハジロの群れ。こんな風に日中はよく寝ている。（2023年11月30日の8:23に撮影）



ヒドリガモ *Anas penelope* 日没頃に猿江公園南部の上池周りの草地で採食をするヒドリガモの群れ。（2023年2月17日の16:35に撮影）